

○ 農産物の市場価格が低迷する中で、果樹農家の収益性を維持し向上させるためには、消費者ニーズに応じた新品種を導入し、安定的に生産することが求められている。

○このため県オリジナル品種を中心とした有望品種について、導入を推進。現地における栽培技術の確立を早急に進め、出荷量の拡大による産地化を目指している。

○平成29年度には、県オリジナル品種の出荷量は約22tを越えた。

### 具体的な成果

○ぶどう「甲斐のくろまる」の出荷量の増加  
・研修会等の開催や、県下に4カ所の実証ほを設置し、管理技術の普及定着を図った結果、良果房確保、結実安定管理のポイントが指導者に理解され、農家に普及したことにより、出荷量が拡大した。

・出荷量 10.2t(H28)→17.4t(H29)

○もも「夢みずき」の現地品質の確認  
・県下4カ所に実証ほを設置し、特性を把握した結果、課題となっている「いびつ果」については、摘果管理が理解され、出荷の段階で問題とならなかった。

・出荷量 4.3t(H29)

○シャインマスカットの安定生産

・「上部支梗を用いた省力栽培技術」を利用した実証ほを県下5カ所に設置し、技術の実証と現地検討を実施した結果、省力技術として理解が図られ、導入する生産者も出てきた。



・JA全農やまなしが作成する「シャインマスカットの栽培管理のポイント」について試験研究と連携して見直しを支援し、5500部が県内の生産者に配布された。

・「ハウスシャインマスカット」の加温体系について、普通加温と半加温の2体系をモデル体系として資料化し、JAおよび生産者に提供した。

### 普及指導員の活動

平成29年度

○県オリジナル品種ブランド化推進協議会への参画（構成員：全農、各JA、苗木業者、県関係者等）

○指導者に対する県オリジナル品種の栽培管理研修会の開催

○オリジナル品種の栽培技術の実証

・「甲斐のくろまる」栽培技術の実証

・「夢みずき」現地における栽培特性の把握

○シャインマスカットの生産安定

・シャインマスカットの高品質化に向けた実証検討（3地域）

・シャインマスカットの加温体系の検討及び作成支援

【活動をすすめるための長期計画】

平成28～30年度

■「甲斐のくろまる」栽培技術の検討

■「夢みずき」現地品質の把握

■管理技術研修会の開催

■次世代のオリジナル品種候補の検討

■シャインマスカット加温体系の検討（事例調査）

### 普及指導員（農業革新支援専門員）

#### だからできたこと

・JA等の関係機関との連携による現地実証ほの設置、試験場で開発した技術の地域適応性の実証など、コディネート、スペシャリスト機能を活かした活動により生産安定に貢献した。

## 山梨県

### 果樹優良品種の導入による産地ブランドの確立

活動期間：平成28年～32年

#### 1 活動の背景

市場価格が低迷する中、儲かる果樹農業を推進するためには、消費者ニーズに対応した新品種を安定的に生産することが重要となります。このためには、県オリジナル品種や新たな有望品種について、栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進する必要があります。また、ブドウ「シャインマスカット」は、全国的に栽培が増加し、産地間の競争が激化してきており、今後は、山梨ブランドの確立に向け、高品質果実の安定生産が必須となっています。

#### 2 活動の経過

農業革新支援スタッフ（農業革新支援専門員）として、本課題を重点プロジェクトに位置付け、各産地を管轄する地域普及センター、試験研究部門、JA、行政各課等と連携しながら取り組みを行いました。

##### (1) 山梨県オリジナル品種ブランド化推進協議会への参画

JA全農やまなしが事務局となる協議会に参画し、県オリジナル品種の普及定着、ブランド化・販売促進、また、新品種候補の検討を行うとともに、苗木の配布について支援を行いました。

##### (2) 県オリジナル品種ぶどう「甲斐のくろまる」栽培の現地実証

甲府市、山梨市、笛吹市、韮崎市に各1カ所の栽培管理実証圃を設置し、管理技術の普及定着を図りました。

##### (3) 県オリジナル品種もも「夢みずき」の地域における栽培特性の把握

3JAに合計4カ所（大藤地区、春日居地区、八代地区、白根地区）の栽培管理実証圃を設置し、各地域における果実品質の特性把握を行いました。

##### (4) オリジナル品種栽培管理研修会の開催

新品種の栽培管理技術の普及に向け、JA営農指導員、各農務事務所普及指導員を対象に「甲斐のくろまる」「夢みずき」等の管理技術研修会を開催しました。

- ・「甲斐のくろまる」：新梢・果房管理、着色管理、整枝剪定
- ・「夢みずき」：摘果管理
- ・ぶどう新品種「甲斐ベリー3」：苗木管理

##### (5) 「シャインマスカット」の生産安定

H28に果樹試験場で成果発表された省力化技術である「上部枝梗を活用した房づくり」について、5JAに各1カ所の実証圃を設置し、技術の実証と現地検討を行いました。

また、JA全農やまなしが作成する「シャインマスカットの栽培管理のポイント」

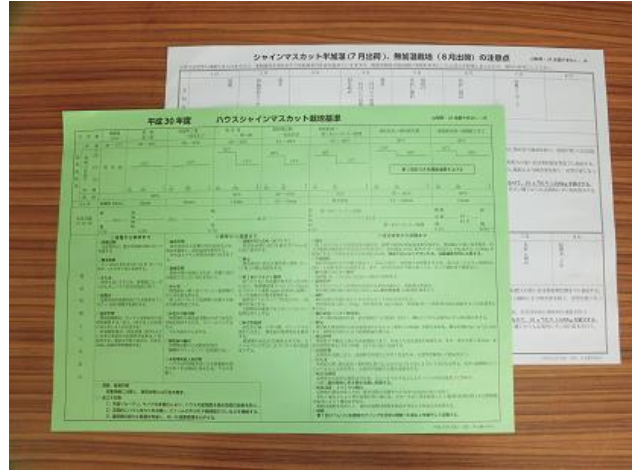
について試験研究と連携して見直しを支援しました。

#### (6) 「ハウスシャインマスカット」の加温体系の検討

試験研究と連携し、普通加温、半加温の2体系を検討し、モデル体系としてJAおよび、ハウスシャインマスカット生産者に説明会を開催しました。



オリジナル品種研修会



ハウスシャインマスカット加温体系

### 3 活動の成果

#### (1) ぶどう「甲斐のくろまる」の県下出荷量の増加

研修会の開催により良果房確保、結実安定管理のポイントが指導者に理解され、農家に普及したことにより、出荷量が拡大しました（H29：17.4t、H28：10.2t）。

#### (2) もも「夢みずき」の現地品質の確認

各地域での検討会により果実特性等が確認され、約3,000本の苗木が県内生産者に購入され、植え付けられました（H28：約2,500本、H24～29の合計：約7,500本）。

また、課題となる「いびつ果」について、摘果管理の徹底が理解され、出荷の段階で問題となることはありませんでした（H29出荷量：4.3t）。

#### (3) 「シャインマスカット」の安定生産

「上部支梗を活用した房づくり」では、各地域で果実品質の検討が行われるとともに、省力技術としての理解が図られ、試験的に導入する農家が出てきました。

また、「シャインマスカットの栽培管理のポイント（H30版）」が作成され、5,500部が県内の農家に配布されることとなりました。

「ハウスシャインマスカット」については、普通加温および半加温の2体系をモデル体系（試行版）として、栽培者に提供することができました。

### 4 農家等からの評価・コメント（オリジナル品種ブランド化推進会議 事務局）

当協議会では、果樹産地の発展に資するため優良品種（オリジナル品種）の改植を進め、高品質果実の生産及びブランド化の促進によって果樹栽培農家の経営安定を目指しております。

オリジナル品種については、栽培技術の確立と統一が必須であるため、重点プロジェクト課題との連携した活動により、優良品種（オリジナル品種）の出荷量の増加及び品

質の向上が年々見られています。

## 5 普及指導員等のコメント

果樹農家の収益性の向上を図るには、消費者ニーズに対応した品種をいち早く導入し安定的に生産することが必要となっています。県オリジナル品種の導入が進む中で、普及現場では、現地での栽培技術の確立を早急に図り、産地化を促進することが求められています。

課題として重点プロジェクトに位置付け、農業革新支援専門員が中心となり地域普及センター、試験研究部門、J A等と連携した活動によって産地ブランドの確立に向けた取り組みにつながっています。

## 6 次年度の取り組み

引き続き関係機関、試験研究と連携し、果樹優良導入品種の栽培技術の確立・普及、生産安定、産地化に向けた取り組みを支援していきます。

特に、新たに県オリジナル品種となったぶどう「甲斐ベリー3」の早期産地化に向け、地域特性の把握、栽培技術の確立・普及に取り組んでいきます。

また、ブドウ「シャインマスカット」についても、省力化技術の普及とハウス加温体系の見直し、輸出を考慮したハウス防除体系の確立に向けた取り組みを支援していきます。